

石岡市教育委員会 教育長賞

「一つの行動が明るい社会を創る」

高浜小学校 五年 小吹 悠（おぶき ゆう）

みなさんは、地域のごみ拾いや、清
そう活動などのボランティアに参加
したことはありませんか。ぼくは、家
中ですら片付けができなく、ごみをご
み箱に捨てずにそのままにしておい
て、よく注意をされます。

ぼくは、先日、高校野球茨城大会の
試合を観戦に行きました。観客席の
熱気は気温にも負けないくらいで、満
席でした。それぞれの高校のすいそ
う楽部のえんそうやえん団のえん、
何より選手たちの一生けん命にプレ
イするすがたを間近で観られたこと
が、とても感動しました。そして、ぼ
くはあることにも気付きました。暑い
中だったので、熱中しよう対さくとし
て細かく水分ほきゆうタイムが設け
られていました。観客席も、かき氷や
冷たいペットボトルなど、飲食をしな

がら観戦しています。それなのに、一
つもごみが落ちていません。

少し前にサッカーW杯で、強ごう国
をやぶって、日本のサポーターの方た
ちが喜びにひたるのを中だんさせ、ご
み拾いをして、その動画がニュースに
なっていました。その四年前の大会で
も、自分たちがえんするチームとは
関係のないところでも、ごみ拾いや片
付けをしていたそうです。観客席だけ
ではなく、試合後の選手やスタッフの
方たちも、ごみひとつなくその場を後
にして、「ありがとう」とメッセージ
を残しています。

ぼくたちは学校でそうじの時間が
あり、教室やろう下などのそうじをし
ます。それと同じように、使ったらき
れいにして帰るということ、そして何
よりその場にいる人みんなが気持ち

よく観戦し、えんするということ。
どこに行ってもき本は同じだと思
いました。

勝ったチーム、負けたチーム、そし
て高校三年生は負けたら引退です。試
合終了後、一生けん命プレイした選手
のみなさんは、泣きながらスタンドに
向かって、深く「ありがとうございま
した。」と一礼をしました。気付けば、
ぼくも自然と「ありがとうございま
した。」と頭を下げていました。

いろいろな気付きがあった野球観
戦でした。地域のせいそう活動も、部
屋の片付けも、学校のそうじの時間も、
これからは気持ちをこめて行いた
いです。全てにおいて、思いやりを持
った行動を心がけたいと思いました。一
番大切なのは、気持ちがかもっている
かどうかです。気持ちがこもっている

からこそ、自然と「ありがとう。」という言葉が出るのだと思います。

社会を明るくするといふことは、ひとりひとりの心のもった行動が必要で。ひとりひとりの気持ちがたくさん集まると、大きな力となり明るい社会がつくられていくのだなと考えました。ぼくたちの思いやる心、行動次第で、これからの未来は変わると思っています。

ぼくは、いつまでもこの日の気持ちをわすれないで、この先明るい社会がずっと続くように、大人になってもけい続いていきたいです。

